

4月1日付で教育長に就任いたしました野橋知哉でございます。教育・文化・スポーツの振興のため、微力ではありますが精魂を傾ける所存でございます。ご支援賜りますようよろしくお願いいたします。

子どもの幸せな未来を考える

豊浦町によやく桜の季節が訪れました。凍てつく寒さを耐え抜いた幹から満開に咲きほこる麗しさは、私たちの新しいチャレンジを後押ししているようです。

去る4月6日、小中学校では入学式・始業式が行われました。新1年生はもちろん、どの学年の子どもたちも元気いっぱいはつらつとしています。表情が違います。新しい学年への意欲や期待がその目の輝きにあらわれています。

先生方もその意欲は満々です。新しい学年の担任になり、教科書の内容をどうやって子どもたちに伝えようか、初めて携わる業務をスムーズに進めることができるだろうか等の大変さや不安がないわけではありませんが、きびきびとした言動に強い決意を感じます。

先日、次のような記事が新聞に掲載されました。英国の教育団体が世界29か国で実施した子どもの教育に関する親の意識調査の結果です。「子どもの将来を楽観視していますか」の問いに、楽観視していると答えた親は28%。調査した国の平均値である60%を大きく下回る結果となりました。この結果に対する考え方はさまざまですが、自分の子の将来を不安視している親が多いということがうかがえます。

少子高齢化や人口減少などの社会的現象のほか、20年後は人工知能社会になり、小学生の65%は現在存在しない職業に就くと予想する学者もいます。私たち大人は、先行き不透明な社会に生きる子どもたちに、何を身に付けさせればよいのでしょうか。

映画監督の大林宣彦氏は、「子どもたちが、不安な未来を力強く生きぬいていくために私たちができることは、よい発射台になること。発射台がしっかりしていれば間違いのない未来に飛んでいくことができる」と言っています。

『教育』は『共育』です。学校と保護者そして地域が力強くタッグを組み、知恵を出し合い、子どもたちを育てていけたらと思います。

とようら大学の修了式が行われました



平成29年度のとようら大学は、3月15日(木)に修了式を迎え、本年度は男性1名、女性20名、計21名が修了いたしました。

平成30年度は、4月20日(金)に開講し、1年間を通して実りある学びを目指していきます。

*とようら大学には年度途中からも参加できます。ご希望される方は、社会教育係にご連絡ください。